

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173200510), 法人名 (医療法人社団 三愛会), 事業所名 (グループホーム「里の家」2階ユニット), 所在地 (名寄市西1条南4丁目17番地), 自己評価作成日 (平成25年7月2日), 評価結果市町村受理日 (平成25年10月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日々生活する中で、一人ひとりが安心して生活が送れる様、理念を大切に捉えた支援を積み重ねているところです。
・強い症状があっても薬に頼り切らないケアを心掛け、副作用が引き起こす弊害を極力減らせる様、QOLを大切にしたいケアを意識しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200510-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成25年8月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで定期的に理念の唱和を行なうなど、実践に繋げ様と努力を行ってはいるが、捉え方にばらつきがあり、職員間で共有実践とまでには至っていない状況にある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事や「里の家」で実施される運営推進会議、避難訓練その他、催し物を通しての交流は持っている。又、散歩等で声を掛けあえる顔見知りの関係もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として出来る事があればと運営推進会議などを通して発信は行ってはいるが、現在においての実績は無い。今後も地域に向けて発信していきたいと考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催される運営推進会議では日々の様子や活動報告を行い、活発に質問、意見、提案などを受けており、サービスの向上に活かされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型からも、市町村からの情報や意見は大切と捉えており、問い合わせや、質問、指導、アドバイス等、係りや協力関係は築かれている。又、定期に開催される運営推進会議への参加をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で行う内部研修でも取り上げ、身体拘束は弊害こそが残り決して良い結果にはならない事を学んでいる。又、入居時に取り交わす契約書にも身体拘束は行いませんと明記されている。施錠は夜間、防犯上としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あってはならない事と捉えており、内部研修や外部研修を通してどういう事が虐待に含まれるのかも含め、職員に周知されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今迄対象となる利用者が居なかったことから全体的に知識や理解は出来ていない状況。「市民後見人」制度や育成の必要性について検討がなされており、認知症介護を提供する事業所として、職員全体が権利擁護の知識や理解を深めるべきと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては時間が掛かる事を前もって伝え、各項目一つ一つに時間を掛けて説明し理解してもらっている。改定時には説明文書を送付し、状況に由って電話や訪問時にも説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明時を通し職員との情報交換を行い、意向を把握できる様努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接職員が代表者と意見交換を行ってはいないが、管理者を通し、職員会議や日常に聞く職員の声を代表者に伝え、行事立案や予算の承認を受けている。又、戸外に楽しみを設け、外食に出る機会等の推奨を受けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度が導入されており、個々の努力や実績が給与や身分の向上に反映される等、やりがいのある職場環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップの推奨をしている。職員一人一人が知識や技術の向上を目指しているが、近隣での研修が少なく施設内研修が殆どの状態。近隣で実施される時には一人でも多くの職員研修が確保される様にと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流や相互訪問、勉強会は大切な事と捉えてはいるが実際には行われていない状況。同一法人との情報交換は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅へ伺い、生活の様子を見せていただいたり、担当のケアマネジャーからの情報も寄せてもらっている。又、ホームの雰囲気を感じてもらえる様に入居前の訪問をさり気なく勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時の情報も含め、サービスの開始時やその後も家族との連携を図りながら、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人、家族が一番困っている事や、支援して欲しい事を見極め、事業所として出来る事の支援を行っている。更には、担当のケアマネからの情報も合わせ臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活の場であり、活動や一緒に過ごす中で、互いを頼りあえるよう係わりを重ねつつある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、近況の報告を行い、情報を共有出来る様にと考えており、事業所の取り組みと家族の意向を合わせた中で支援に努め、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅やかつての住まいから離れた生活の中で、馴染みの場所から遠ざかりつつあるのが現状ではあるが、古くからの知人が声を掛けてくれる事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ空間で生活を共にする中で常に良好な関係性ばかりとはいえないが、職員が取り持つ場面は少なく、同じ顔ぶれがそろって事で安心できたり、何時もの場所で過ごす事で落ち着いたりと自然に支え合って生活が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の後も、問い合わせや相談を受ける事はあり、入院中のお見舞いに伺う事もあるが、時間の経過と共に自然と疎遠になっていくのが殆どの状況。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それまでの生活歴の把握に努め、本人らしい生活に繋がれるよう取り組んでいる。カンファレンスでは時間を掛けながら本人の気持ちを汲み取るに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時にいただく家族からの情報や、本人の言葉、担当のケアマネからの情報を元にし、情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活場面から状況を把握し、職員間の共有に努め、センター方式シートも活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、本人の意向や家族の意向が反映されるように取り組んではいるが、意向を表出できない方への介護計画等では未だ力足りない状況がある。更に十分な討議を行い、より良い介護計画の作成に努めたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などの記録はなされているが、ケアの実践が落としこまれておらず、従って気づきや工夫など少ない状況から、介護計画の見直しや実践に繋がる記録には未だ至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期不定期の受診をはじめ、夜間急変時の事業所対応の受診など、利用者一人一人に生じる支援を行う事で安心した生活が送れる様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季がはっきりした地域性と、利便性の良い住宅環境の中にあつて、暑さ寒さを感じる場面を心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診してもらっているが、本人の状況によっては専門医に変更する事もある。又、母体が病院であり、本人、家族が納得した中でのかかりつけ医を変更し、安心して受診が継続される様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をとっており、毎週看護師の訪問がある。利用者の1週間の体調の変化や受診結果を報告相談し、諸注意や受診に繋げる等のアドバイスをもらう等、利用者が安心して医療や生活が送れる様支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決定した中では、ホームでの体調や生活状況を細かく介護添書として用意し、入院後も同じ様な係りで医療が受けられる様、混乱が少ない様にと情報提供を行っている。又、退院時には出来るだけ家族と一緒に医師や看護師から留意点を聞き、少しでも早く元の生活に戻れる様に支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化について触れてはいるが、生活する中で重度化に近付き、医療支援が必要と予想される時には、家族さんも受診に付いていただき、ホームでの生活が可能か等を医師と相談し、意向を確認した上で出来る限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に応急救命講習を受講しているが、咄嗟の対応には不安があり、ホーム内でもシミュレーションや反復した訓練が必要と思われる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の呼集訓練や避難訓練を地域消防署、町内会の参加協力で実施されている。終了後には運営推進会議が行われ、消防署からも出席を頂き、講評やアドバイスを受けており、災害対策を再度意識する機会に繋がっている。又、町内会には緊急の連絡網も整備されていて、水害時の避難場所の周知もされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識はしているが、難聴の方もおられ時として排泄の場面では、声が大きくなる事がある。居室への入室の際には、当然の事、声を掛けてから入らせてもらっているが、全体的に、同じ言い回しであっても語尾一つで違う事を再確認していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望があった際には出来る限り添える様に務めている。又、自分から表出されない方には、選択肢を用意する等出来る限り自己決定がかなう様に意識をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活できるのが望ましい事ではあるが受診等、時間の関係から、職員側の都合が優位になる事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の着替えをはじめ、季節感のある服装支援を心掛けているものの、本人の意向が強く折り合いのつかない事も多いが、出来る限り違和感のない服装、理美容の支援を心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事、外食など、本人の好みの食事も意識しており、少しでも楽しみのある食事になる様にと考えている。又、出来る部分の片付けや準備なども本人の意思に基づいて支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を使用する事でバランスの良い栄養が確保されている。しかし、眠気が強くて食事が摂れない方もおられ、時間にとられない支援や、補食等の用意、食事の形態にも配慮を行い、食事量や水分量の把握から低栄養や脱水防止への配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは出来てはならず、主に夕食後のケアに留まっている。歯科受診が難しい状況の方もおられ今後意識を高め支援に繋げていく。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄での失敗があっても直ぐに排泄用品を使うのではなく、個人の排泄パターンを見極め、さりげない声掛けや誘導を行い、個人に合わせた支援を行っている。又、夜間と日中の排泄用品を使い分けるなど、少しでも快適な排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘から、内服に頼る利用者は多いが、野菜や水分の摂取、マッサージも行っている。疾患との関係から便秘状態の改善が必要な方へのアドバイスをもらいに受診を行う事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は自由ではあるが、実際には職員の配置の多い午後入浴が多い。その中で、入浴の希望を聞いたり、自ら希望される方、間隔の空いている方と臨機応変に支援を行っている。又、入浴を好まない方には職員が代わったり、時間をずらしたりしながら対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで長く居眠りをされている方は声掛けで居室で休んでいただいたり、殆ど各自の習慣やその日の気分で入床入眠されており、時間で入床を促さない様に意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や用法は理解しているが、副作用までの理解は出来ておらず、何時もと様子が違うなど気が付いた事は申し送り等で報告したり、看護師訪問での相談や急遽、受診に繋げ、医師に相談する事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か役割や手伝いをしたい、何もしたくない等、思い思いで生活される方、趣味を持ち楽しみ事として過ごされている方もおられる。ホールにはお茶やコーヒーが飲める様セッティングしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々状況や希望によって、出来るだけ叶えられる様にと考えているが、十分出来ているとは言えない。 家族の面会時、職員の判断で買えない物を一緒に買いに出掛けたり、町村の違う場所へは家族が対応されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人はお金を所持しないという事になっており、お祭りや本人の欲しい物を購入する際には預かっている本人のお金を持ってもらい支払いが出来る様に勤めるが、実際に使う方は極一部で、職員が支払いを代行する事が多くなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りを言って来られる事は無いが、職員が仲介に入り届け物のお礼の電話や年賀状の代筆等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの天井には、天窓が2ヶ所あり、夏場は閉める等して強い日差しを避けている。その他刺激の強い場面はなく、一般的な家具や調度品を揃え、浴室や台所、居室も同様になっている。殆どの入居者は日中もソファで過ごす事が多い等からも居心地の良い空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然とソファや、食卓等に定位置が出来、思い思いに過ごせており、一人になりたい時には居室に戻られる等、職員が介する場面は殆どない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居が決定した段階で、少しでも居心地良い安心した居室になる様、使い慣れた品や好みの物を持ち込んで欲しいと伝えているが、時には、新しい物が多く見られる事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体的な低下にも考慮され建物内は全てバリアフリーになっており、手摺も多く設置され、居室には表札を出している。必要に因っては、居室やトイレの入り口に目印も用意する等、本人の力で生活を意識している。		